

古事記・日本書紀に親しむ

参加予定のみなさまへ

疫病退散！ 巣ごもり期間企画

古事記・日本書紀の 疫病にかんするお話

其の1 令和2年4月28日付

新川神社 宮司 船木信孝 筆

みなさん、お元気でしょうか！宮司の船木信孝です。ほんとうにやっかいなことになりましたね。今の時点で開催のめどがつかみませんので、素読会が始まる前に準備運動期間として定期的に「**疫病退散！ 巣ごもり期間企画**」をお届けしまして素読会をフォローしてまいりたいと思います。今後はYOU TUBE 動画で模擬素読会も計画していますのでお楽しみに。

まずは、みなさんに「疫神齋(えきじんさい)御朱印ちらし」をお届けいたします。既に新聞にて掲載されましたが、皆様の元にもおとどけいたします。

「疫神齋(えきじんさい)」という言葉は聞き慣れないと

と思いますが、関西の古社では昔から夏越の大祓などで配られている護符です。

「疫神」はウィルスの事です。我々の祖先はウィルスも「目に見えないおそれる存在」ですので「疫病神(やくびょうがみ)」として恐れ鎮めるための祭祀をおこないました。なんと、ウィルスも「神」なんですね。



『怪談夜更鐘』（かいだんうしみつのかね）。ある武士のもとに現れたこの疫病神（左）は50歳ほどの坊主の姿だったという。（ウィキペディアより）

我々に恵みをもたらして戴ける神さまのおまつりには「祭(さい)」の文字をつかいます。お供え物をして感謝の誠をささげ、さらなる御加護をお祈り致します。

それに対して今回の護符に使われた「齋(さい)」の文字を使う意味は、どういう意味を含むのでしょうか？

「いつく／いつき／いわう／いみきよめる(忌み清める)／ものいみ(物忌み)する:心身を清めて飲食を慎んで神に仕える」などの意味をもつ漢字で「厳格・神聖・不浄」の意味がありますので「厳粛なる神事を行った証」を意味します。

つまり、今回の場合は「**新型コロナウイルス沈静の厳粛なる神事を行った証**」という意味になります。

疫病が家の中に入らないようにする護符(ごふ:おまもりふだ)的なものですので玄関にお貼り戴くのがベストです。玄関の外に貼れない場合は玄関の中、もしくは日常目に付くところ、神棚に垂らしてお貼り戴いてもけっこうです。

もちろん、護符を貼るだけではウィルスの蔓延・感染は防げませんので以下の実践が必要になってきます。

いのる:疫病退散世界沈静

必要:うがい手洗いマスク

避ける:密閉密集密接

控える:不要不急外出

一番最初に挙げましたのは「祈る」。自分の現世利益のためではなく、家族、仲間、周りの人、社会全体のために、「**祈りに満ちた心**」を持つ。神棚や御神前で**おだ**

やかな心を持つことが免疫力の向上をうながすことが医療でも検証されています。ぜひ毎朝神棚に「いのり」の時間を設けて心をおだやかなきもち満タンにして1日過ごしてみてください。

いまはこの4箇条の実践項目を愚直にねばり強く実践するしか無いとおもいますので、是非ともいたるところにお貼り戴いて感染防止策の共有にご利用下さい。

免疫力の向上には「咲(わら)い」「面白ろ」「楽し」

いつ・どこで・だれが・じぶんが、感染したり感染を広げるかわからない事態です。たぶん、みなさんそれぞれに「恐怖心」をお持ちではないかと思います。私もみなさん同様に怖れています。

ただ、今は必要以上に「怖れる」と、心も身体も萎縮して免疫力が低下しますので、前掲の4本柱の「実践項目」をただただ、まじめに実践して、あとは気楽に家の中で楽しんですごしましょう。そして免疫力を高めておくには「わらい」がいちばんです。ガンをも消すナチュラルキラー細胞が増えるのです。しかもタダで。

古事記・日本書紀が伝える、神々の世界である高天原が無秩序世界になったとき神々がどうやってその困難を突破したか？ということですが、

- ①まずはみんなで相談(相談・知恵・役割分担)
- ②楽しい事をして笑う(まつり・えがお・おもしろがる心)
- ③難の原因を祓う(懲罰・追放等の再発防止策)

という三段階の事をなされて難局を打破されたことが「天岩戸開き」の神話として語られます。

古事記・日本書紀では天照大神さまが「天岩戸(あまのいわと)」にひきこまれて、高天原(たかあまはら: 神々の世界)が真っ暗に成り、葦原の中つ国(あしはらのなかつくに: 我々が暮らす現世)ありとあらゆる災いがおこりました。

古事記では

「ここに、万(よろず)の神の声(おとない)は狭蠅(さばえ)なす満ち、万(よろず)の妖(わざわい)ことごとくに発(おこ)りき。」と書かれています。

大勢の神々がざわつくようすを蠅が狭いところに密集して「ウンウン・ウンウンー」騒いでいるようすにたとえています。我々人間もいっしょですね。今の世情に似ているかも知れませんか。「ざわつく」ときの感じですね。

そこでこの無秩序状態を突破するのに先ず神々はあつまって会議をして、思金神(おもいかねのかみ)という戦略参謀に長けた神が「お祭り」をして「神楽舞(かぐら

まい)」を天岩戸の前で催してにぎやかに神々で騒ごう！と提案します。

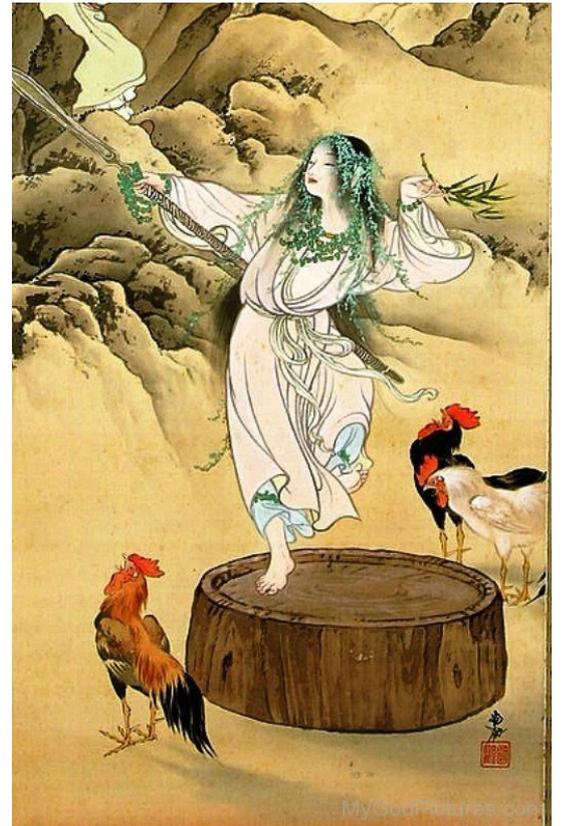
そして天宇受売命(あめのうずめのみこと)という元祖・巫女ダンサーが大きめの桶を伏せた上で足を踏みとどろかせながら、つまりタップダンスの様に足で音を出しながら踊った、と書いてあります。「トントコ、トントコ、スツントン、～」みたいなかんじでしょうか。

そこで神懸かりになったように踊ったと書いてあります。つまり、我を無くして狂ったように面白おかしくおどったのでし

ょうね。そうしてますと、着物が乱れてきて胸のお乳があらわになって着物の帯も女性のセクシーゾーンまでほどけてきました。これを見てどうなったかということですが、

「ここに高天原(たかあまはら)動(ゆす)りて、八百万神(やおよろずのかみ)、共に咲(わら)いき。」

その姿を見て、八百万神が一斉にドツと笑ったので高天原がぐらぐらっと揺すられた様に動いた、と書かれています。ここでステキなのが「わらう」を「笑う」ではなくて、「花が咲く」の漢字を当てて「咲(わら)いき。」と当て字されているところです。古事記の編集者、太安万侶



(おおのやすまろ)さん、グッジョブ(良い仕事)ですね。
個人的に古事記の当て字の中でも一番好きな読み方
です。なんで今つかわないんだろ？

古事記ではいたるところで現代ではあまり使わない「当
て字」がありますがこれがまた良いんですよ。花が咲い
たようにわらった様子、その情景が目に浮かびますよ
ね。こんなふうに粹な表現が随所にでてきますので古
事記の原文の素読は何度読んでも味わい深いです。

ここで天照大御神は外が大騒ぎなので怪しいとおもわ
れ、岩屋戸を少しだけ開いて、

「私が引き籠もっているので世の中は真っ暗のはずな
のに、なぜ天宇受売命は神楽を舞って遊んで、やおよ
ろずのかみは皆わらっているの？」とおっしゃいます。

ここで天宇受売命(アメノウズメノミコト)が最高神であ
るはずの天照大御神にバシッとこういいます。なんと、

「あなた様に勝(まさ)って貴(とうと)い神さまがいらっし
やいますので、みな歡喜してわらっているのです！」

と伝えます。すごいですねえ、最高神に対しても**言えん
こと無し**です。

古事記の原文では此所の表現もステキです。

「汝(な)が命(みこと)にまさりて貴(とうと)き神います
がゆえに歡喜(よろこ)び咲樂(えら)ぐ」

「咲き楽しむ」という漢字を重ねています。こういうセン
スが1,300年以上も前から有ったという事自体が驚き
だと思いませんか。と、いうことで、この後高天原に平
穩がもどってくるのですが、つづきは素読会の時に譲り
たいとおもいます。

此所で大切なのが、楽しいから「笑う」のではなくて、難
関を突破するために「笑った」ということです。「形」が
先、「心」は後。楽しくないときに敢えて楽しいことを見
つけて笑うのです。これが神代伝来の難関突破の方法
です。

ついでにいいますと、「面白い(おもしろい)」の語源は
天岩戸が開いたとき、一面が明るくなり八百万の神た
ちの顔面が光とよろこびの表情にみちあふれて白くな
ったので「おも・しろ」というそうです。これは古語拾遺
(こごしゅうい)という古事記・日本書紀に掲載されな
かった話を書いた本です。

この本には「楽し」の語源も書いてあります。みなさん、
楽しいときはどういう動作をします？手を打ったり手を
広げてバンザイ！みたいな動作を無意識でしてしま
いますよね。楽しいときには自然と「手が伸びる」ので「手

(た)・伸(の)し」で「たのし」だそうです。熨斗アワビの、のばす意味での「のし」ですね。

つまり、天岩戸で天照大御神のお出ましを得たときに八百万の神たちの顔面がほほえみと太陽の光で白く輝いた、「面白」、そしてみんなで楽しく手をのばして拍手をした「たのし」、これは神さまたちが難関突破時の故事に由来するということです。

「咲(わら)い」「面白ろ」「楽し」を実践して、ナチュラルキラー細胞を活性化させましょう。プラス、「良い睡眠」「腸内環境を整える」事がウィルスから身を守る免疫力の向上につながります。

「笑う門には福きたる」という言葉のとおり、笑いはリラックス法として非常に有効であることが科学的に証明され、数多くの医学論文が出ていますが、神代の時代よりそのことを伝えてきた「古事記・日本書紀」って、すごいですよね。

それでは、次回は5月末に巣ごもり企画の続編をお届けいたします。みなさん、お元気で！

八百万の神、神懸りの舞に高天原が揺れるくらいにどっとわらう。たぶんセクシーダンスでは無く、お笑い系でしょうね。



天照大御神再臨に八百万の神たちの面が白く(おもしろ)輝き、手をのばして(たのし)よろこぶ様子。(上下:「紙芝居古事記」龍馬プロジェクトより)

